

押し寄せる「平和ボケ日本人」

韓民族の矜持と好対照

「冬ソナ」以来、衰えることのない韓流ブーム。若い女性や昔若かった女性が、引きも切らず訪れている韓国に、とうとう（昔若かった）私も降り立った。韓流スターや化粧品目当ての女性たちの同類項と誤解されないために、韓流ブー

ムが下火になったところを見計らって訪れようと目論んでいたのに。

「まっ、オジサン3人と一緒だから、誤解される心配もないか」。しかし、「この人たち、一体どういう関係なの？」と訝しがられるに違いない！と、心は



屋台だって元気だぞ！ 活気あふれるソウル最大級の南大門市場



景福宮の光化門に立つエラそうなオジサン

千千に乱れるばかり。そこに追い打ちをかけたのが、仁川空港からホテルまでのガイドの李敬姫（イキョンヒ）さんの一言だ。「日本からは、昔は年配の男性が史跡などを見学に訪れることが多かったのですが、最近では、歴史に全然関心のない若い女性がたくさん押し寄せて、韓流ドラマの舞台を訪れたり、明洞でたくさん買い物をしていきます」。

おっしゃるとおり！一言もない！どこへ行っても李さんの言葉がつきまとう。

「かつて、帝国主義時代、韓民族を支配し、拷問にかけて虐殺した日本人よ。いまや平和ボケして、韓流ス



壁一面に張られた独立運動家たちの受刑記録表

ターを追いかけ、韓国の化粧品を買い漁って喜んでいいのか」と非難されているよう。

平和ボケ日本人が韓流スターに現を抜かしている間に、韓国では過去の受難と解放の歴史を若い世代に伝え、保存してきた。

「過去の日本との関係、歴史を、私たちは子どものころから学んできた。独立を勝ち取るために奪われた多くの命を、決して無駄にしない」そんな強い意志を感じる。

ホテルのフロントの青年は、流暢な日本語を話した。8年間、日本のテレビドラマで日本語を勉強し、習得したようだ。ワーキングホリデーで日本に数カ月間滞

在中、アルバイト先のレストランで厨房に回されそうするために来たのだから、接客のできるウェイターをさせてほしい」と直訴し、希望どおり接客ができたという。

自分の希望や意見は、はっきり主張する。NOと言わずにうやむやにして、「新型うつ」なんていう仮面でごまかす日本人とは大違いだ。

街で若者に道を尋ねると、こちらが納得できるまで根気よく説明してくれる。日本では、外国人に声をかけられると、意味不明な笑いを浮かべて逃げ出すのが関の山。どれもこれも日本とは好対照だ。

行く先々で韓民族の矜持を垣間見ると同時に、「今のままでいいのか、日本人？」という思いが強くなる。だらしのない日本人の一人として。（久貝 真澄）

往十里にはチンジルバン（蒸し風呂）と大浴場があった。訪韓歴7回の八幡さんは2年ほど前に来たことがあるというが、同じく訪韓歴7回の小生は初めてだった。一夜、みんなで大浴場で汗を流した。

威風堂々

韓国銭湯の経験がある小生はあることを予想していたが、男はみな脱衣所から前を隠さずに堂々と闊歩（かつぽ）している。洗いの場の横にある垢（あか）すりベッドでは、垢すり男の前に紳士が生まれたままの姿で横たわっている。

二十何年前に韓国でこの姿に接してからは、日本人が手やタオルで前を隠す仕草は、「自分のお粗末なので他人さまには見せられない」と言っているように見え出した。

以来、小生も韓国人に習って隠さないことに。すると背筋もしんとして「韓国人に負けないぞ」の気概まで湧いてくるのだ。

（荻原 莞二）



朝鮮戦争開戦記念日の写真展